



<Un consiglio ai nostri studenti> 翻訳・解説付き

Buongiorno a tutti! Innanzitutto lasciate che mi presenti: mi chiamo Giovanni e vivo in Giappone da circa trent'anni. Trent'anni!? Oh, mamma mia, quanti anni sono passati! E ciò significa che insegno l'italiano da altrettanti anni.

Ma voi mi direte: hai davvero pazienza! Forse sì, come del resto mi dicono spesso i miei studenti. Per fare questo lavoro ① penso che una delle caratteristiche fondamentali sia avere proprio una buona dose di pazienza. Dico questo perché quando si insegna a persone, nella fattispecie i giapponesi, che hanno delle basi culturali completamente diverse da un italiano è difficile, non “insegnare”, ma “trasmettere” i concetti che la lingua contiene. In altri termini spiegare perché gli italiani usano determinate espressioni e che cosa esse effettivamente significhino.

Quest'ultimo problema deriva anche dalla maniera in cui si studia. Infatti una delle tendenze che hanno gli studenti è quella di tradurre parola per parola perdendo così il vero senso dell'insieme. ② L'italiano va infatti interpretato in un contesto specifico ③ altrimenti si prendono degli abbagli grossolani. ④ Per evitare questi fraintendimenti bisognerebbe che si usasse un po' meno il vocabolario, poco adatto all'interpretazione specifica delle parole, e affidarsi all'esperienza dell'insegnante che saprà indirizzare verso una comprensione più veritiera.

Altro “problema” da aggiungere è quello legato all'illusione che le lingue romanze siano praticamente identiche, quindi chi ha studiato, mettiamo, il francese, automaticamente potrà parlare l'italiano e viceversa. Per non parlare poi dello spagnolo che, mi scuserete il pizzico di ironia, è considerato alla stregua di una variante leggermente passionale dell'italiano, ⑤ data l'indole tradizionalmente focosa del popolo iberico, capace del resto di produrre melodie ammalianti come il flamenco. Purtroppo, o per fortuna, le cose non stanno in questi termini. Spesso parole simili hanno significato molto diverso e questo genere di errori che gli studenti “commettono” non sono semplici da correggere.

Per non parlare poi dell'idea di poter veicolare l'italiano attraverso la lingua inglese, ⑥ di cui, seppure si possano conoscere i fondamenti, non si è mai padroni abbastanza, per poi finire malauguratamente nell'incappare nello stesso errore che vale per le lingue romanze e cioè di utilizzare dei termini anglofoni come se effettivamente fossero italiano.

L'italiano è “l'italiano”, è questo che noi insegnanti cerchiamo di spiegare agli studenti, ⑦ facendogli capire ⑧ che lo sforzo che fanno nel comparare tante lingue è spesso controproducente, ⑨ perché li allontana dallo scopo ultimo che dovrebbe essere quello di diventare “solo” dei buoni discenti della lingua italiana.

Parlare “una” lingua già è di per sé qualcosa di straordinario, perché di fronte a noi è ⑩ come se si aprisse un nuovo mondo fino ad allora sconosciuto e, anche se qualche volta può lasciarci perplessi, sicuramente ci darà la possibilità di arricchirci culturalmente.

L'importante è perseverare. Come dice il vecchio adagio ⑪ “Roma non fu fatta in un giorno”.

Giovanni Amoretti

【訳】〈私たちの生徒へのアドバイス〉みなさんこんにちは！ まずは自己紹介をさせてください。私はジョヴァンニ、日本に住んで30年ほどになります。30年!? まったく、ずいぶんな歳月が流れたものです。それはつまり、同じ年月イタリア語を教えているということでもあります。

そこでみなさんはおっしゃるでしょう。「ほんとうに我慢強いんですね！」と。その通りなのでしょう。だって、私の生徒たちからもよく言われるのですから。この仕事をするために欠かせない特質のひとつは、まさに相当な忍耐力を持ち合わせていることだと思います。このように言うのも、理由があります。私が人に教えるとき—特に、イタリア人とはまったく異なる文化を持つ日本人に教えるとき、何が難しいかという、イタリア語のもつ概念を「教える」のではなく「伝える」ことです。別の言い方をすれば、イタリア人がある決まった表現を使う理由を説明したり、それらの表現が実際にどんなことを意味しているのか説明したりするときに難しさがあるのです。

この後者の問題は、学習方法から生じる問題でもあります。実際、生徒たちにありがちなのが、言葉を一語一語ばらばらに訳してしまい、全体での意味が失われてしまうことです。イタリア語は現に、具体的な文脈で解釈しなければなりません。そうでなければ、大きな思い違いをしてしまうのです。このような勘違いを避けるには、辞書を使う頻度をちょっと減らす必要があるでしょう。辞書は、言葉の具体的な解釈にはあまり向いていないのです。そして、教師の経験に任せることが必要となるでしょう。より真に近い理解へ導く方法を分かっているはずで。

もうひとつ「問題」があります。ロマンス諸語は実質的に似たもの同士だから、たとえばフランス語を学習した人は自動的にイタリア語が話せるだろう、またはその逆もしかり、という幻想に結びついた問題です。またスペイン語については、少々皮肉めいた言い方になりますが、フラメンコのような魅惑的な旋律を生み出せるスペイン民族の伝統的に血の気の多い性質による、イタリア語のちょっと情熱的な別バージョン、という見方がされているのは言わずもがなです。しかし、と言おうか、幸いに、と言おうか、事実はそうなってはいません。似た単語なのに意味は全然違うということがよくありますし、生徒たちが「犯す」こうした間違いは簡単に直せるものではありません。

また言うまでもなく、英語を通じてイタリア語がわかるという考えも、基礎的な知識は得られるかもしれませんが、けっして十分な習熟には至りません。そして不幸なことに、結局はロマンス語の場合と同じ間違い、つまり英語の語彙を実際にイタリア語であるかのように利用してしまうという間違いに陥ってしまうのです。

イタリア語はイタリア語です。これが、われわれ教師が生徒に説明しようと努めていることです。たくさんの言語を比較することに四苦八苦するのは、しばしば逆効果であることを理解してもらいたいのです。なぜなら、イタリア語の良き生徒たちのただ1つの目的であるはずの最終的な目的から、生徒を遠ざけてしまうからです。

ひとつの言語を話すということは、すでにそれ自体が驚くべきことです。私たちの前にそれまで未知だった新しい世界が開かれるようなものだからです。そして、ときには途方にくれるようなことがあったとしても、きっと私たちに文化的な豊かさをもたらしてくれるはずですよ。

大事なことは持続することです。古いことわざで言われるように。「ローマは一日にして成らず」と。

ジョヴァンニ・アモレッティ (著書：『この一冊で合格! イタリア語検定4・5級テキスト&問題集(ナツメ社)』『改訂版 耳が喜ぶイタリア語 リスニング体得トレーニング(三修社)』、実用イタリア語検定過去問題集編集に協力)

(翻訳：第25回1級合格 武田 明子)

【文法解説】初級・中級レベルの方々には単語も構造も難しく感じられると思いますが、実用イタリア語検定で出題される文法事項が随所に散りばめられていますので、試験対策の参考としてください。

- ①初心者の方々にはまだ馴染みのない接続法という法です。先ずはこのような形があるということ覚えてください。主節で、pensare、credere、sperareなどの動詞のように、主観的な気持ちを表す動詞を用いるとき、従属節の動詞には、接続法が用いられます。例) Penso che la risposta sia giusta. (その答えは正しいと思う[接続法現在]) siaがessereの接続法3人称単数現在形。なお、接続法には、現在、過去、半過去、大過去の4つの時制があります。
- ②[andare+過去分詞] 受動態で「…されなければならない」という意味です。infattiは本来接続詞ですが、ここでは副詞的に用いられ、「現に、実際には」などの意味となっています。
- ③prendere un abbaglio「勘違い、思い違いをする」。主語はdegli abbagli grossolaniで、この場合は部分冠詞の複数形で、代名小詞のsiを伴う受動態の形をとっています。直訳すると「いくつかの大きな勘違いをする」となります。
- ④ここの1フレーズは構造が少し複雑で難しいですね。5級、4級レベルの方々にはまだ見なれない条件法という用法が使われています。非人称動詞のbisognareが条件法現在の形を取り、婉曲的な表現が用いられ「…する必要があるでしょう」となっています。「必要」なもの、che以下と、affidarsiの2つ。che以下の従属節は、bisognareが条件法の形を取っているため接続法半過去となり、代名小詞のsiを伴う受動態の動詞の形を取っています。主語はil vocabolario「辞書」です。affidarsiは再帰動詞で、前置詞のaを取ります。構造的にbisognerebbe che si usasse... e bisognerebbe affidarsi all'esperienza...となっていると考えると分かり易いでしょう。affidarsiに続くcheは関係代名詞で、主語はinsegnanteです。
- ⑤[datto+名詞]「…であるために、…であるから」。datoは後ろに続く名詞に応じて変化します。例) date le circostanze ho accettato「こういった事情のため、私は受け入れた」。
- ⑥di(前置詞)+cuiは関係代名詞の用法の一つです。di cuiの先行詞は、少し離れていますがdell'ideaです。seppureは仮定の譲歩を表し、「たとえ…であっても」と訳され、接続法の動詞を取ります。essere padrone di+不定詞は「精通[習熟]した」の意味で、代名小詞のsiを伴う非人称の形となっています。
- ⑦ジェルンディオという不定法の一つです。この場合は、facendoにagli studentiを示す人称代名詞の間接補語gliがついた形となっており、「理由」を表しています。また、facendoは使役を表すfare。facendogli capireで「生徒たちに理解してもらおう[させる]」という意味になります。
- ⑧2つ目のcheは強調構文の形をとっており、fannoの主語はgli studenti、目的語はlo sforzoでこのlo sforzoが強調されています。nel comparareはnel+不定詞で、「…するとき、…しながら」のような意味を持ちます。
- ⑨liは直接補語の人称代名詞で、この場合はgli studentiを示します。dovrebbeは条件法の形を取っており、推量を表し「…のほずです」と訳します。Quelloは前出した名詞の重複を避けるための指示代名詞で、scopoの代用となっています。
- ⑩[come se + 接続法半過去[大過去]]「まるで…かのよう」。si aprisse un nuovo mondoは代名小詞のsiを伴う受動態です。
- ⑪Roma non fu fatta in un giorno。「ローマは一日にして成らず」fu fattaは直説法遠過去の受動態です。
(解説：Le Ali 編集部)

<私の"リスニングの壁"攻略法>

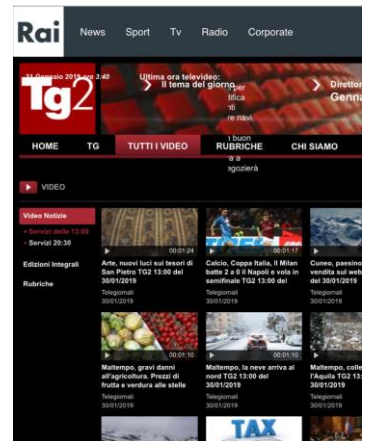
2018年10月に受験した実用イタリア語検定試験1級は2度目の挑戦だった。リスニングが合格基準点に1点及ばず、あえなく"敗退"という結果に終わった。リスニングは話の内容や体調次第で理解度にばらつきがあった。今は勉強の仕方を日々試行錯誤しながら改善している。この私が果たして有益な情報を提供できるかどうか分からないが、現在行っている勉強方法を述べてみたいと思う。

イタリア語の音の美しさに魅かれ勉強を始めたのは1996年初夏の頃だったと記憶している。東京の高田馬場にあるリンガビーバ・イタリア語教室の夏期講習に参加し、それからはそこで毎週1回2時間のレッスンを受講した。1999年の2級合格までの勉強は基本的にこの学校で学んだレッスンの予習・復習、NHKのラジオ語学講座、検定試験の過去問の3本立てだった。その後、家庭の事情や仕事などの理由で2001年4月から通学が難しくなり、再びリンガビーバにお世話になるのは2013年くらいからになる。今は学校で配られるプリント等を中心に勉強をしている。

私が今、時間を割いて強化しているのは、リスニングである。インターネット環境が充実したこともあり Rai^(*)の Tg2⁽²⁾でニュースを中心に聞いている。以前は一字一句を聞き取ろうと身構えていたが、これでは集中力がもたないうえに言葉一つ一つにとらわれ過ぎるあまりに、包括的な内容の把握が意外にもできないことが分か

った。今は言葉というよりも情報を聞き取ることに留意し、内容の塊ごとに意味を把握することに注意している。また、聞くときは1度で理解できるよう心掛ける。2度目以降は意味のまとめりごとに区切って聞き、ポーズを入れて日本語訳をする。理解が曖昧な箇所は訳ができないので、この時点で理解していなかったところが発見できる。時間が取れない場合は、あれこれ聞かずに一つのニュースを徹底的に精聴する。その後、ANSA⁽³⁾などのインターネットニュースで確認し内容の照合をする。ニュースを通してイタリアの事情に詳しくなれるのでとても楽しい。この学習法が良い結果に繋がることを願っている。

1999年秋季第9回2級合格、現在1級挑戦中 H.I.
(*1)イタリアの公共放送局 (*2)Rai2で放送されるニュース番組
(*3)イタリアの通信社



Tg2の公式HP。一部番組は著作権の関係で視聴できないが、ニュース動画は日本国内でも視聴可能

<"慣れ"から正確さへ>

私がリンガビーバ・イタリア語教室に通ってイタリア語を学び始めたのは5年程前、中学1年生の頃です。ただ幸いなことに、幼い頃から機会がある毎にイタリア語を学んでいた両親が簡単な単語やフレーズを教えてくれていました。また、多くのイタリア人と出会い、楽しそうに会話をする両親を見てきました。当然、何を話しているのか当時の私には分からず、それがイタリア語の学習意欲を掻き立てた要因の一つです。

ヴェネツィア近くのリニャーノという町で開かれるジュニアサマースクールにも参加しました。午前中は野外の緑の中での授業と午後は日替りのアクティビティ、週末には近くのヴェネツィアやトリエステなどへの遠足が用意されていて、多国籍の生徒に交じり、現地のイタリア人の先生やスタッフの方々とイタリア語で生活する貴重な機会になりました。



ジュニアサマースクールの仲間たちと。ヴェネツィアのサン・マルコ広場にて

このように、私のイタリア語学習は会話から始まりま

したが、それは多少文法が間違っても成立するものです。しかし将来、仕事でもイタリア語を使っていきたいと考えるならば、文法力が不可欠と感じ、初級の半分ほどが終わった高校1年生の頃に、文法の正確性が問われる検定試験を受けてみようと思いました。

4級の受検対策で一番苦労したのは「近過去と半過去の用法の違い」で、先生方に質問を繰り返し、一つ一つ丁寧に教えていただきました。検定試験の準備を進める中では、誤解していた・理解していなかった事柄をはっきりと知ることができました。そして気付いたのは、その部分について時間をかけてでも掘り下げていかなければならない、ということでした。

私は大学受験のため、いったんイタリア語から離れますが、再開後はより多くの表現ができるように勉強して、更に上級の取得を目指していきたいと考えています。



ジュニアサマースクールの校舎

検定ニュース

>>1級合格者は全国通訳案内士試験 筆記試験語学科目が免除されます！<<

>>2019年秋季、第49回検定が“外務省後援”となりました<<

◇2019年春季第48回検定志願者数（出席者数/志願者数）

	札幌	仙台	新潟	東京	横浜	金沢	名古屋	京都	大阪	岡山	広島	福岡	宮崎	那覇	ローマ	ミラノ	計
準2級	4/5	4/6	0	125/146	23/23	1/1	9/11	16/16	34/41	3/4	0	8/10	0	0	3/3	7/8	237/274
3級	8/9	4/5	2/2	211/243	36/42	4/4	18/21	27/32	49/57	3/3	3/4	20/21	3/3	1/1	9/10	16/17	414/474
4級	11/15	11/13	4/4	194/247	50/60	8/9	33/37	45/50	46/63	4/4	6/7	33/39	1/1	1/1	5/5	15/15	467/570
5級	14/17	11/14	4/4	163/207	31/41	5/5	22/25	23/28	43/59	6/7	4/4	24/28	4/6	3/3	1/1	3/3	361/452
合計	37/46	30/38	10/10	693/843	140/166	18/19	82/94	111/126	172/220	16/18	13/15	85/98	8/10	5/5	18/19	41/43	1479/1770

第48回検定でのアンケート結果です（より詳細はHPに掲載します）

出席者数 1,479名 アンケート数 1,136通 回収率 76.8%

1. 実用イタリア語検定を知ったきっかけは何ですか？

回答者数：1,079名

当協会HPを見て：394人(36.5%)

大学で知った：177人(16.4%)

NHK語学講座テキスト掲載の当協会広告を見て：142人(13.2%)

語学学校で知った：133人(12.3%)

家族・知人の勧めで：86人(8.0%)

書店に設置してあるポスターや検定要項を見て：75名(7.0%)

先生に勧められて：64名(5.9%)

カルチャースクールで知った：39名(3.6%)

イタリア映画祭にて：2名(0.2%)

その他：39名(3.6%)

2. 最終的に何級まで取得したいと考えていますか？

回答者数：1,131名

1級：283名(25.0%)

3級：252名(22.3%)

2級：219名(19.4%)

準2級：136名(12.0%)

4級：30名(2.7%)

5級：6名(0.5%)

分からない：205名(18.1%)

3. 当協会のHPは頻りにチェックされていますか？

回答者数：1,129名

試験の申し込み受付や合格発表の時期のみ：756名(67.0%)

月1~2回程度：192名(17.0%)

見ていない：144名(12.8%)

週1回以上：37名(3.3%)

4. HPで充実して欲しいコンテンツはありますか？

回答者数：893名

検定対策コラム：625名(70.0%)

参考図書：307名(34.4%)

みんなの受験体験記：125名(14.0%)

エッセー集：75名(8.4%)

リンク集：44名(4.9%)

●事務局よりホームページ活用をお願い www.iken.gr.jp

イタリア語検定試験のお知らせだけでなく、イタリア関係の情報・学校・リンク集など情報を満載しております。過去の問題もeラーニング・システムで配信しておりますし、コンビニプリントで過去問も配布しています。また、情報交換の場として掲示板をご用意しています。ご活用いただければ幸いです。ご要望や受験・お仕事体験談等、メール (info@iken.gr.jp) でお寄せください。Le AliとHPに掲載させていただいた分には薄謝を差し上げております。

<2019年度の試験日程ご案内（予定）>

◆ 第49回 2019年10月6日（日） ◆ 第50回 2020年3月1日（日）

▶伊検公式 LINE スタンプ好評発売中◀

伊検ならぬ伊犬のイタリアン・グレイハウンド、Iken君と、その彼女のAliちゃんの楽しいスタンプでLINEの会話を楽しんでください！日本語もついています。



電子書籍版登場！『使えるイタリア語単語 3700』



実用イタリア語検定準2級まで完全対応のイタリア語単語集。掲載されている3700ワードはジャンル別に分類してあるので覚えやすく、各単語に検定での該当級が明記されているので検定対策に最適。全掲載フレーズ音声収録。無料音声ダウンロード付。Amazon、honto、楽天ブックス、紀伊国屋書店ウェブストアで発売中。
発行・発売 ベレ出版
佐藤徳和、北野美絵子ジュリア著